

TMPU Family

東北医科薬科大学報

2020.12

vol. 36



大学より
**新型コロナウイルス感染症に
対する本学の対応**

薬学部より
薬剤師国家試験対策

医学部より
白衣授与式

附属病院より
**附属病院体制の完成
2病院体制のスタート**

CONTENTS

学長挨拶 3

大学より

新型コロナウイルス感染症への対応特集

新型コロナウイルス感染症に対する本学の対応	4
遠隔授業、対面授業の実施状況(薬学部)	4
遠隔授業、対面授業の実施状況(医学部)	4
新入生クラスミーティングの開催	4
賀来満夫特任教授よりメッセージ	5
「悩み」状況調査の実施について	5
各種行事の中止(大学祭・球技大会)	5
本学の学費に関する考え方について	5
同窓会からの新型コロナウイルス対策支援について(御礼)	6
多くの皆様から様々なご支援をいただきました(御礼)	6

大学関係

在学生保護者教育懇談会開催(Web開催)	7
オープンキャンパス2020開催	7
令和2年度卒業式のお知らせ	7
訃報 箱守 仙一郎先生	7

医薬連携

医薬研究交流会開催	8
医療薬学概論	8
課題研究	8

薬学部より

薬学部後期オリエンテーションの開催	9
遠隔授業、対面授業の実施状況	9
薬剤師国家試験対策	11
小松島キャンパス自習室の開放について	11
薬学部 行事予定	11

医学部より

遠隔授業、対面授業の実施状況	12
白衣授与式	13
令和2年度東北大学・東北医科薬科大学合同慰霊祭	13
鹿野記念奨学奨励賞及び笠原賞 授賞式	14
医学部第1期生卒業アルバム作成開始	14
大学院医学研究科の設置について	14
医学部 行事予定	14

入試センターより

薬学部学校推薦型選抜(指定校制・公募制)	
実施結果	15
令和3年度入学者選抜日程	15

大学院より

令和2年度大学院学位記授与	15
大学院薬学研究科入試結果	15
大学院薬学研究科入試日程	15

キャリア支援センターより

令和2年度就職(進学)状況	16
令和2年度薬学部キャリア・就職支援行事予定	16
2022年3月卒業予定者の就職活動時期について	16
就職活動体験記	17
インターンシップ体験記	17

図書館より

二松会からの図書寄贈について(御礼)	18
図書館一部再開について	18

法人より

組織改編	18
学内人事	18
令和2年度外部資金獲得状況	19

附属病院より

附属病院体制の完成 2病院体制のスタート	19
本院より	20
若林病院より	21

トピックス

日時弘仁教授が2020年度日本医師会医学研究奨励賞を受賞	22
第50回仙台広告賞の優秀賞を受賞	22
大学ホームページリニューアル	22
東北薬祖神祭に出席	22
NHK Eテレ サイエンスZEROへ佐々木健郎教授が出演	22

教室紹介

薬学部 薬品物理化学教室	23
医学部 衛生学・公衆衛生学教室	23

同窓会より

叙勲・表彰	巻末
-------	----

二松会より

二松会総会の開催について	巻末
--------------	----

ご寄付のお願い(教育研究協力資金)

パンデミック 感染症 すさまじいコロナ禍の実態

理事長・学長 高 柳 元 明



今年はじめに国内でのコロナ感染禍が明らかになり、その後、WHOよりコロナ感染パンデミックが宣言されて以来11ヶ月、依然として世界各地でコロナパンデミックが猛威をふるっています。現在(11月23日)の時点で、全世界の感染者が5800万人、死者の数が140万人を数えています。いつ感染の終息を迎えることができるのか、誰にも予測できません。感染がこのまま消退するのではないかと期待していると、次の波が来るという、きわめて精神状態に良くないことが続いています。この11ヶ月間、大学の在学学生も教職員も大変なストレスの中で生活してきましたに違いありません。特に今春入学した新生には、計り知れない不安感があると思います。我々全教職員は、皆さんがこの困難な環境を何としてでも乗り越えていけるよう、あらゆる支援をするつもりです。今、第3波に入っているといわれる状況で、つい先日11月21日、本学は学校推薦型選抜を終えました。全員マスクをして入試に臨まなければならないという受験生の心情を察すると、思わず日頃の実力を発揮して無事に入試を乗りきってほしいと願わずにいられません。

本学では3月より学生が入構出来ない措置を取ったために、当初予定より約1ヶ月遅れての授業開始となりました。前半はZoomによるリアルタイム配信など遠隔授業を中心にやってきましたが、後半は対面授業をできるだけ多くして進めています。

医薬両学部とも高学年では医療現場での実習が中心になっています。さいわい実習予定であった医療施設は、この様な厳しい環境の中でも快く学生の実習を引き受けてくれており、多くの関係者に深く感謝するばかりです。

遠隔授業に対する学生、教職員の反応は様々で必ず

しも悪いものばかりではありませんが、何分にも初めての経験が多く、円滑に進めるための準備に大変苦労したときいています。

教育、医療という分野は知識だけを教え、学生にはただ国家試験に向けて暗記して学んでもらうという性質のものではありません。医療人養成の教育で基本的で欠かせないことは、学生と教職員の長い触れ合いの中で、学生の心の中に、患者さんとの対話を通じてその思いを理解し、共感できる心を醸成することです。これは対面授業や実習でしか、その効果を生むことはできないと考えています。

感染症のパンデミックに遭遇してみると、その影響があまりにも大きく、複雑に広がっており、誰もがその深刻さに驚かざるを得ません。そして、改めて日頃の何気ない日常生活が、ありとあらゆる方面で人と人とのネットワーク、絆で結ばれ支えられていることに気付かされます。パンデミックは、建物の破壊、停電など目に見える災害ではありませんが、人々の心を破壊していく、実に恐ろしい天災といえます。

今回の災禍により、当面は新しい生活様式を守っていくしかありません。コロナ後のことは、今は予測できませんが、これまでの生活様式、考え方など、すべての方面においてパラダイムのシフトが起こるでしょう。私たちは、今後の大学における教育、医療システム、運営などすべてのものについて、このことを考えに入れて進めていかねばなりません。

学生、教職員の皆様も、厳しい状況を乗り越えるべく懸命な毎日をお過ごしのことと思います。何かと不自由な生活でお疲れもあるかとは存じますが、どうかご自愛いただき、このコロナ禍をともに乗り越えていきましょう。

新型コロナウイルス感染症への対応特集

新型コロナウイルス感染症に対する本学の対応

新型コロナウイルス感染症により、本学の教育・研究活動は大きな影響を被りました。本学は学生、教職員及び地域の皆様の安全を第一に考えながら、さまざまな制約のある状況の中、学生の学びの場を少しずつ拡げてきたところです。

本学は9月、新型コロナウイルス感染症の影響下で学生と教職員が授業や研究等の活動をする際の指針となる、「新型コロナウイルス感染症に対応する東北医科薬科大学の活動指針」を策定し、本学のウェブサイトで公表しました。後期の授業や研究等は、本指針に基づいて進めていきます。同時に、地域の中核的医療機関である附属病院を擁する本学では、学生と教職員に対し、活動指針を順守し、検温等の体調管理を徹底するよう、医療系大学の一員としての自覚と行動を求めています。

授業については、前期は大半を遠隔授業（オンライン授業）として実施せざるを得ませんでしたが、その経験を通じて、オンライン授業では反復学習が容易であるなど、学生にとってメリットがあることもわかりました。後期から、対面授業とオンライン授業に比べ、その両者を組み合わせたハイブリッド型の分散授業を実施して、「3つの密」を回避しながら、学生の学びの場をいっそう拡充していきます。11月以降、対面または分散形式で実施する授業を増やすことで、学生が通学する機会が大幅に増加します。

東北医科薬科大学病院と東北医科薬科大学若林病院は、新型コロナウイルス感染症に対して医療機関としての責務を果たしつつ、医学部学生と薬学部学生を実習生として受け入れることで、教育機関としても重要な役割を果たしています。

遠隔授業、対面授業の実施状況

薬学部

前期授業は、リアルタイム配信授業とオンデマンド配信授業を併用し、遠隔授業を実施しました。演習・実習（卒業研究を含む）では、個人防護具装着手順のビデオ講習受講など感染防止対策を徹底し、一部対面形式にて再開しました。また、後期授業は薬学科6年次生（薬学総合演習）と薬学科1～4年次生・生命薬科学科1～3年次生を対象として講義室定員を半数程度に制限し、一部対面授業を実施しています。詳細はP9をご覧ください。

医学部

前期の講義科目は、すべて遠隔（Zoom）で実施しました。5月中旬より4年次のPBLをオンライン上で行いました。1年次の実習科目も遠隔で行い、実験をバーチャルで体験するなどしました。後期に入り、2年次の解剖学実習を対面で行いました。今後も感染予防対策を徹底して講じながら、対面での授業を増やし、学生の学ぶ機会を充実させてまいります。詳細はP12をご覧ください。

新入生クラスミーティングの開催



新入生クラスミーティングの様子

例年、4月に新年度オリエンテーションを実施し、新入生に対してはクラスメイト同士の交流の機会を設けておりましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、そのような内容のオリエンテーションを行うことが出来ませんでした。

これを受け、学生委員会では交流の機会を設け、学生達の孤独感などの精神的ストレス軽減を目的として、オンライン会議システム「Zoom」を活用したクラスミーティングを右表の日程にて実施しました。

クラスミーティングでは、自己紹介や大学でやりたいこと、高校時代の部活動などのテーマトークなどを行いました。

はじめはみんな緊張した様子でしたが、担任教員の自己紹介やクラスメイトとの交流をとおして徐々に表情が和らいでいきました。

対面授業も一部再開され、コミュニケーションの機会も増えていきます。この交流をぜひとも今後の大学生活に活かしてもらいたいと思います。

実施日時		
薬学部	薬学科1組	6月4日(木)
	薬学科2組	6月3日(水)
	薬学科3組	6月5日(金)
	薬学科4組	6月3日(水)
	薬学科5組	6月2日(火)
	薬学科6組	6月4日(木)
医学部	生命薬学科	6月5日(金)
	医学部	4月27日(月)
	医学部	4月30日(木)
		6月16日(火)

賀来満夫特任教授よりメッセージ

今回の新型コロナウイルス感染症は人類にとって、1918年に発生したスペイン風邪に匹敵するほどの出来事であり、まさに感染症によるメガクライシス、巨大な危機となっています。

私は現在、東北医科薬科大学をはじめ、宮城県、仙台市などでの新型コロナウイルス感染症対策に従事しておりますが、本年3月からは日本プロ野球機構・Jリーグ新型コロナウイルス感染症対策会議専門家・地域アドバイザーの座長、また10月から日本で初めて設置された東京都 i CDC（東京都感染症対策センター）の専門家ボードの座長に就任し、新型コロナウイルス感染症に対応しています。

今回の新型コロナウイルス感染症は100年に1回という新興感染症であり、社会全体が混乱に陥っています。その混乱を防ぎ、感染拡大を防いでいくためにも、社会全体がより密接に連携・

協力し、“ソーシャルネットワーク”を構築し、一体となって対応していくことが重要です。

本学では高柳理事長のリーダーシップのもと、医学部・薬学部で感染症対策のモデルともなるしっかりとした感染症対策が実践されており、宮城県・東北地域のみならず、日本全体の感染症対策のネットワークの中心的な役割を果たしていくことが期待されています。



感染症学教室 賀来 満夫 特任教授

「悩み」状況調査の実施について

新型コロナウイルス感染症の拡大により、従来の生活様式とは異なる日常が長期化し、大学生としての生活も制限が多く、遠隔授業によるストレスも蓄積していると推察される状況を踏まえ、webシステムを利用した『「悩み」状況調査』を10月16日(金)から10月29日(木)の期間で全学部生を対象に実施しました。(調査にあたって、10月16日(金)に公式メールアドレス宛てに案内をお送りしております。)

大学としては、学生の皆さんのキャンパス復帰を段階的に進めていくと同時に、現在皆さんが抱えている悩みを理解し、その解決に向け取り組んで参りたいと考えています。『悩み』がある場合は、小さなことであっても一人で抱え込まず、まずは大学にご相談ください。

なお、10月16日(金)に学生の皆さんに送信したメールには、悩みについての相談や質問等に関する学内外の窓口の一覧をあわせて記載しておりますのでご参照ください。

各種行事の中止(大学祭・球技大会)

大学祭および球技大会につきましては、例年、学生が中心となり開催しておりましたが、令和2年度においては、新型コロナウイ

ルス感染症拡大の影響を受け、全て中止となりました。

本学の学費に関する考え方について

一向に収束の気配を見せない新型コロナウイルス感染症禍が、学生の皆さん、保護者の皆様の日々の生活にさまざまな形で影響を及ぼしていることと思われます。改めて心よりお見舞い申し上げます。

本学は、感染拡大防止のため前期授業において開始時期を延期し、かつ、インターネットを介した遠隔授業を実施いたしました。基本的には通常の教室で行っている内容を、その質や量を維持しながら、インターネットを介したオンライン上で実施するという考え方です。後期におきましても、前期と同様に遠隔授業を中心として実施せざるを得ない状況ですが、一部の科目(実習等)については、対面での実施を開始しております。

学生の皆さんの中には、不安や困難を抱えながら授業に参加している方もいると思います。

また、学生の一部の方から、こうした状況を背景として学費の減額及び返還を求める声が挙がっています。そこで、本学の学費の考え方についてお伝えいたします。

本学では、学生の在学の対価として徴収している費用を総称して学費と呼んでいます。学費は、授業料、教育充実費(医学部)、施

設設備費から構成され、入学時に別途納入いただいている入学金とともに、在学期間中における支払総額と各年度における支払額を明示しています。この学費は、入学から卒業までの6年間(薬学部生命薬科学科は、4年間)で学位を授与するための教育に必要な費用の総額として設定されています。したがって、各年の学費はこの費用総額を年数で等分したものであることから、たとえ、今回のような「緊急事態」によって授業の方法や開始時期が変更になったとしても、減額できる性格のものではないと考えております。

前期授業の開始が遅れ、また、授業形態が対面から遠隔に変更になったことは事実です。しかし、誰も想定できなかった「緊急事態」の中では、学生・教職員の健康と安全を守りながら教育を継続する方策としては、遠隔授業以外の選択はなかったと考えています。また、後期授業につきましても、新型コロナウイルス感染拡大が続いていることから、これまで以上に学生の感染防止・安全確保に配慮しつつ前期と同様に遠隔授業を中心に実施していますが、一部の科目(実習等)については、対面で実施しております。

大学は唯一実行可能な選択肢であった遠隔授業の質向上のために、技術上・教授法上の努力を日々続けております。授業につい

では、パワーポイントをベースに作成した動画や従来形式の授業を録画したものをオンデマンドで配信する形と、リアルタイムかつ双方向授業で行う「Zoom会議システム」を使用する2種類で実施しています。また、授業以外の時間に学生の相談に乗る仕組みも導入しています。授業も通常と同じ授業時間数を確保しており、シラバスに記載された授業の到達目標を達成するよう努力しているところです。職員もその多くが、慣れない遠隔授業の実施に加えて、今回の新型コロナウイルス感染症対策にかかわる学生・教員の支援業務に必死に取り組んでいるところです。

例年以上の準備及び業務を必要とする、このような授業及びその支援を現在の状況の中で行うことが可能なのは、例年通りの授業料を納入していただいているからに他なりません。

次に、施設設備費ですが、「施設設備費」は、単なる利用料としての経費でなく私立大学の教育研究環境の充実に向けて、キャンパスや設備の維持、管理等に当てられております。

施設設備費についても、授業料と同様に6年間(薬学部生命科学科は、4年間)を前提とした総額を分割して納入して頂いています。施設設備費が定額となっているのは、個々の学生の使用頻

度や使用量によって納入額を変えてしまうと、自由に利用することができなくなり、自由な学修ができないからです。また、本学の過去の卒業生の皆さんが納入してきた施設設備費を基金として、現在のキャンパスにおける校地校舎が整備されていることから、今後継続的に環境を維持していくためには、例年どおりの施設設備費を納入していただく必要がございます。

新型コロナウイルス感染症の拡大が、従来の大学のあり方を一変させ、学生の皆さんが大きな不安を抱えておられることは、よく理解しております。おそらく、今回の感染症の終息後には、これまでにない規模の社会変動が訪れると考えています。本学は、学生の皆さんの健康と安全の確保を最優先に考えたうえで、あらゆる手段を動員して教育研究を継続しながら努力しているところでございます。

4月以来のキャンパス入構制限が長期化し、キャンパスにおいて学生と教職員が集い、語らい、学び合う機会を設けられずにいることに、教職員一同、たいへん寂しく感じております。学生の皆さんには大変なご不便をおかけしておりますが、何卒ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

同窓会からの新型コロナウイルス対策支援について(御礼)

新型コロナウイルス感染拡大が社会の各方面に様々な影響を及ぼしております。本学につきましても学生が登校出来ず対面による通常の授業ができないなど、教育・研究や学生生活に多大な影響が出ております。

このような状況を憂い、同窓生の皆様から母校及び後輩学生に対して、同窓会として何らかの支援を行うことができないものかとのご意見が多数寄せられ、定時総会の議を経て、薬学部及び医学部にそれぞれ次の物品が寄贈されました。

薬学部は後期も遠隔授業になることから、配信用のWebカメラ付きの高性能ノートPCを設置し動画配信等に活用いたします。



薬学部:
遠隔授業配信用高性能
ノートPC 一式 11台
LIFEBOOK U7410/D
14インチ 他

医学部は、既に福室キャンパスで学生の実習などの対面授業が始まっていることから、サーモカメラを活用して学生の健康管理に役立てていきます。



医学部:
AIサーマルカメラ
ドームタイプ一式 1台
(福室キャンパス設置)
AIサーマルカメラ
ドームタイプ

多くの皆様から様々なご支援をいただきました(御礼)

株式会社タカヤ(大河原町 社長 佐藤能文)様・株式会社七十七銀行(仙台市 頭取 小林英文)様より、新型コロナウイルス感染拡大防止目的として、アクリルパーテーションを寄贈いただきました。いただいたパーテーションは小松島キャンパスの中央棟1階事務室カウンターへ設置し、学生との対応に有効に活用させていただきます。

また、薬学部生薬学教室の佐々木健郎教授が開発した「あおり藍エクス」で加工した「あおり藍サージカルマスク」が製造開発元の日精株式会社とあおり藍産業協同組合様から附属病院に2,000枚寄贈されました。附属病院へは、この他にも多くの企業・団体・個人の皆様からマスクの寄贈をいただいております。

さらに、医療法人仁泉会様からは感染症防護対策キット80セット、サージカルマスク5,000枚を寄贈いただいたほか、株式会社楽天野球団様を通じ医療用防護服の代用品として楽天イーグルスポンチョ1,000枚も附属病院へ寄贈いただきました。寄贈いただいた資材は、有難く活用させていただき、患者さんへの継続した医療に繋がっております。

このコロナ禍では、様々な資材が不足し、困難な状況が続く中、多くの皆様から様々なご支援をいただきましたことに対し、改めて感謝申し上げます。今後とも何卒よろしくご協力申し上げます。



アクリルパーテーション



感染症防護対策キット、サージカルマスク、ポンチョ

大学関係

在学生保護者教育懇談会開催(Web開催)

本学における教務関連、学生生活、就職状況等の現況報告の場としておりました、在学生保護者教育懇談会の開催を、今年度は10月3日(土)に本学の小松島キャンパス(薬学部)および福室キャンパス(医学部)において、また地方会場として10月17日(土)に東京会場(医学部)、10月24日(土)に青森会場(薬学部)および秋田会場(薬学部)にてそれぞれ予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を考慮し、皆様にご参集いただいていた開催は中止とし、10月1日(木)から10月30日(金)の期間での動画配信によるWeb開催とさせていただきます。

たくさんのご視聴、誠にありがとうございました。

たくさんのご視聴、誠にありがとうございました。

オープンキャンパス2020開催

8月2日(日)に小松島キャンパスで薬学部オープンキャンパスを開催いたしました。今年は新型コロナウイルス感染症対策として人数を制限しての完全予約制とし、各部屋における換気やソーシャルディスタンスの確保など対策の徹底と、教職員はもとより参加者の皆様にもマスク着用や手指消毒などご協力を頂きながらの開催となりました。例年よりも縮小した形での開催となりましたが、学部学科説明会や模擬講義、個別入試相談コーナーの

他、キャンパスツアーや薬用植物園ツアーなどを実施いたしました。イベントなどが中止となり大学の情報を得る機会が少なくなっていたので、大学に来られることは参加者の皆様にとって貴重な機会となったようです。同日開催予定だった医学部オープンキャンパスは残念ながら中止となりましたが、オンラインでの「医学部個別入試相談」と「医学部生とオンライントーク」を実施いたしました。



オープンキャンパス2020の様子



令和2年度卒業式のお知らせ

令和2年度学部卒業証書・学位記授与式並びに大学院学位記授与式を、令和3年3月10日(水)午前10時より電力ホール(電力ビル7階)において挙行いたします。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から内容等変更場合があります。変更となる場合は、随時大学ホームページにてお知らせいたします。

訃報 箱守 仙一郎先生

本学附属分子生体膜研究所名誉所長、名誉教授の箱守仙一郎先生(米国ワシントン州立大学名誉教授・パシフィックノースウェスト研究所生体膜研究部門長)は令和2年11月11日(水)に逝去されました。享年91才。糖脂質研究の世界的権威である箱守先生は、昭和34年に附属癌研究所(現分子生体膜研究所)の開設のため、東北大学医学部から本学教授に

就任されました。渡米された後も、附属癌研究所指導教授としてご指導いただいた他、評議員として大学運営にご助言等をいただいております。

ここに哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



医薬連携

医薬研究交流会開催

第12回医薬研究交流会が、令和2年7月30日(木)、オンラインで開催されました。テーマは、「臨床研究とその評価」です。

今回は医学部の4名の先生方が、以下のタイトルで発表されました。

1)「健康保険組合の大規模健診・レセプトデータを用いた薬剤疫学検討」

医学部 衛生学・公衆衛生学教室 佐藤倫広助教/目時弘仁教授

2)「リンパ系の可視化およびリンパ管新生因子の評価法について」
医学部 生理学教室 河合佳子教授

3)「炎症モニターリングマウスとインビボイメージングシステム(IVIS)を用いたマウス個体内炎症状態の非侵襲的、経時的、定量的評価」

医学部 医化学教室 高井淳助教/森口尚教授

4)「データマイニング手法の導入による大脳前頭前野のニューロン集団の機能的クラスターの解明」

医学部 神経科学教室 松坂義哉教授

コロナ禍で半年延期され、開催したZoomミーティングでしたが、参加者は76名で、活発な質疑がなされ成功だったと思います。

今後は、共同研究へと繋げる医薬融合研究推進のためのWEBマッチング企画を推進して参ります。

研究推進委員会 委員長 井ノ口 仁一



医薬研究交流会の様子

医療薬学概論

本学医学部では薬物療法への理解の深い医師を養成する目的で、医学部3年次生を対象に「医療薬学概論」を開講しています。計15回の講義は全て薬学部の教員が担当し、薬物相互作用、薬害、生薬学、天然物化学、薬物送達法、薬物動態学などの薬学の専門知識を習得します。各臨床科の講義では疾患の病態や治療については学びますが、治療薬の誕生した経緯について話を聞く

ことはできません。「医療薬学概論」では薬の開発過程について学ぶほか、処方箋の作成といった実践的内容についても学ぶことのできる貴重な機会となっています。本講義を通じて、医学と薬学、医師と薬剤師の連携が深まり、地域医療の充実につながることを期待しています。

課題研究

医学部3年次に実施する「課題研究」では、3年次の1年間にわたり、医学部または薬学部の教室のいずれかに配属されて研究活動をおこないます。他の科目同様、いわゆる「3密」を避ける必要はありましたが、少人数ごとの配属であることを活かして可能な限り対面で実施できました。3年次は、最も座学が多い学年であることから貴重な時間であったと思われます。

一方、急速に進展したIT環境により、課題研究遂行上の思わぬ利点も出てきました。小松島や福室キャンパスの距離や学年の違いを超えてディスカッションを行うことができるようになり、また、他大学の共同研究先の先生から指導を頂けるようになるなど、濃密な研究の実施ができるようになってきています。



研究室を超えて、オンラインで医学統計のセミナーを受けている様子。希望により、参加場所を選んでもらった。

薬学部後期オリエンテーションの開催



薬学部後期オリエンテーションの様子

薬学部後期オリエンテーションは、新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで9月7日(月)～9月10日(木)の日程で実施されました。オリエンテーションでは、組担任との懇談会や教務関係の説明、学生生活に関わる説明(新入生のみ)が行われ、学生は

真剣な面持ちで聞き入っていました。大学生活のスタートや新型コロナウイルス感染症の影響を受け、変化する環境に戸惑いや不安を抱くこともあるかもしれませんが、大学は学生の皆さんが安心して過ごせるようフォローに努めてまいります。

遠隔授業、対面授業の実施状況

薬学部では、教職員一丸となり、コロナ禍における授業の方針について慎重に議論を重ね、前期の遠隔授業や一部対面実習、後期の遠隔授業、一部対面講義および対面実習を下記のとおり実施しています。

遠隔授業

5月13日(水)より前期授業、9月11日(金)より後期授業を開始しました。今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点(飛沫・接触感染防止、3密を避ける)から、Zoomを利用したリアルタイム配信授業(同時双方向型)とオンデマンド配信授業(録画配信)を併用した遠隔授業を導入しました。一方、少しでも多くの学生が大学にて学修する機会を確保する目的から、感染状況を踏まえ、一部の授業については感染防止対策を徹底し、10月30日(金)より対面形式で再開しています。



遠隔授業を行う吉村教授

対面授業(実習)

6月22日(月)より演習・実習(卒業研究を含む)の一部について教育効果を鑑み、対面形式にて実施しました。実習開始にあたり、学生は事前に個人防護具(マスク、ゴーグル、手袋、白衣の装着等)装着手順のビデオ講習を受講し、そのうえで日々の体調管理、登校時の検温、手指消毒等、感染防止対策を講じて臨みました。遠隔授業とは異なり、実際に実験器具を使用し、教員から直接指導がある中で真剣に取り組んでいる様子が見え、うかがえました。



対面実習を受ける学生(実験実習)



対面実習を受ける学生(実務模擬実習)

対面授業(講義)

10月30日(金)より薬学科1～4年次生、生命薬科学科1～3年次生を対象とし、一部対面形式での講義を開始しました。講義室内の常時換気、座席の指定、入退出時の手指消毒、マスク着用等を厳密に講じ、感染対策に努めています。また、教員はマスクやフェイスシールドを着用した上で講義を行いました。薬学科6年次生(薬学総合演習)を対象とした後期授業(8月24日～10月16日)では受講者を講義室定員の半数程度に制限し、対面形式で実施しました。学生は真剣に授業に取り組んでおり、タブレットやPC等を持ち込んでの受講学生が見られ、これまでの対面授業の風景とは異なる様子でした。



フェイスシールドを着用し、講義を行う山口教授

薬剤師国家試験対策

令和3年2月20日(土)、21日(日)の両日第106回薬剤師国家試験が実施されます。問題数は345問(内訳:必須問題90問、一般問題(薬学理論問題105問、薬学実践問題150問))です。

合格基準は以下のとおりです。

◎合格基準

以下のすべてを満たすことを合格基準とすること。なお、禁忌肢の選択状況を加味する。

- ①問題の難易を補正して得た総得点について、平均点と標準偏差を用いた相対基準により設定した得点以上であること。
- ②必須問題について、全問題への配点の70%以上で、かつ、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の30%以上であること。

なお、第106回薬剤師国家試験より出題基準が改定されます。

今年度の薬剤師国家試験対策として、薬学科6年次生を対象に令和2年10月19日(月)から令和3年1月24日(日)まで外部講師による特別補講I(オンデマンド配信)を実施中です。さらに、明年2月中旬には卒業予定者を対象に特別補講IIを実施予定であり、参加は任意・講習料は有料です。

第106回薬剤師国家試験の合格発表は令和3年3月24日(水)です。厚生労働省ホームページ、資格・試験情報のページにその受験地及び受験番号を掲載して発表されます。(受験者全員に成績通知書、合格者には成績通知書を兼ねた合格証書が郵送)

小松島キャンパス自習室の開放について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月から自習室を閉鎖しておりましたが、対面授業の一部再開に伴い、感染対策を講じたうえで10月末より自習室を開放いたしました。薬剤師国家試験を控える薬学科6年生に優先的に自習室を開放し、その他の学年には各学年週3日を自習室として講義室を開放しています。自習室は利用者の感染拡大を防ぐため、座席の間隔を空けて

配置し、ドアや窓を開けて換気するなどの対策をしています。また、陽性者が出た場合に備え利用時には入口の「自習室利用表」に氏名や利用時間を記入することとし、利用者を把握しています。自習室を利用する際は、マスク着用や手指消毒など利用上の注意を守り、有効に活用していただきたいと思います。

薬学部 行事予定

1月	
1月7日(木)～9日(土)	薬学科4年生薬学共用試験(CBT)
1月中旬～下旬	後期試験
1月29日(金)	薬学科4年生後期成績Web公開、後期フォローアップオリエンテーション(薬学科4年次のみ)
2月	
2月4日(木)	後期成績Web公開(薬学科4年生以外)
2月4日(木)、5日(金)	薬学科6年生薬剤師国家試験対策第5回模擬試験(卒業決定者)
2月中旬	後期追・再試験
2月16日(火)、18日(木)	2021年度実務実習事前講習

2月17日(水)	薬学科4年生薬学共用試験(OSCE追・再試験)
2月20日(土)、21日(日)	第106回薬剤師国家試験
2月22日(月)	I期実務実習開始
2月26日(金)	薬学科4年生薬学共用試験(CBT追・再試験)
3月	
3月10日(水)	令和2年度学部卒業証書・学位記授与式並びに大学院学位記授与式
3月15日(月)	進級判定
4月	
4月6日(火)	令和3年度入学宣誓式
※新型コロナウイルス感染症の影響で変更になる場合があります	



遠隔授業、対面授業の実施状況

コロナ禍において、医学部では学生の安全と心身の健康を第一に考えつつ、教育の質を落とさずに全学生の学習機会を確保することを目標にかかげ、前期の講義は全て遠隔(Zoom)で行いました。教員から在宅の学生に向けて、一方向に講義を配信する形式のみならず、対面での講義に近い教育効果を目指し、試行錯誤しながら実施してまいりました。

4年次では5月中旬より10週間に渡って週に3回程度、遠隔会議システムの機能を活用し、PBL(グループワーク)に取り組みました。医学部教員がチューターとなりグループ間をオンライン上で巡回し、適宜進捗確認や助言、評価を行う形がとられました。遠隔講義の場合、対面以上に発言のタイミングを計ることが難しいものの、全体発表会での質疑応答においては、チャットに書き込み形式で非常に多くの質問が挙げられ、学生の積極性が感じられました。

実習科目については、1年次の基礎物理学実習、基礎生物学実習、基礎化学実習では遠隔での実施となり、実習前説明および実習作業の録画を見せながら解説し、実験をバーチャルに体験する形となりました。

体験学習科目では、医療機関等の学外施設への訪問を中止せざるを得ず、1年次の早期医療体験学習では代替教育として訪問予定であった施設の方からのオンライン講演と質疑応答あるいは施設の方への電話インタビューにより訪問の疑似体験をし、まとめのグループ学習及び発表会をオンラインで行いました。

後期に入り、前期から夏休み後に日程を変更していた2年次の

解剖学実習を対面で実施しました。今後も状況を見極めつつ、感染予防対策を徹底して講じながら、大学において対面で受講する授業を増やし学ぶ機会の充実化を慎重に進めてまいります。

まだまだ予断を許さない状況ですが、今後も安全を最優先に、学生の学びの歩みを止めることがないよう、教職員一丸となって日々学生の支援を行ってまいります。



基礎・臨床統合演習の発表会で評価をされているリハビリテーション学の伊藤修教授、衛生学・公衆衛生学教室の目時弘仁教授



1年次基礎生物学実習



2年次免疫学実習



3年次課題研究



5年次臨床実習

白衣授与式



医学部医学科では4年次後期から始まる臨床実習を前に、9月30日(水)福室キャンパスプラタナスホールで、2期生96名の白衣授与式を挙行了しました。本年は参列者を最小人数とし、感染対策を徹底した上での式となりました。

高柳理事長・学長、福田医学部長、近藤統括病院長からの激励の挨拶に続き、代表学生に白衣が手渡され、全員が本学のロゴ・



大学名が入った白衣に袖を通しました。その後、学生自ら考えた宣誓文を代表学生が宣誓し、「医療を受ける方とご家族の人格を尊重し、かつ医学教育に協力して下さる全ての方々への感謝を忘れずに臨床実習に臨みます」と力強く決意表明し、式典を締めくくりました。

令和2年度東北大学・東北医科薬科大学合同慰霊祭

合同慰霊祭が11月26日(木)に開催されました。今年度は新型コロナウイルスの影響を考慮し、場所を仙台国際センターから東北大学医学部 星陵会館・星陵オーデトリウムに移し、教職員並びに代表学生のみの少人数の参列としました。代表以外の本学の学生は70周年記念講堂でオンライン参加して、同時に感謝の意を捧げました。

学生代表として、本学2年廣澤幸乃さんが慰霊のことばを述べ、医学・医療の発展のためにお身体を捧げてくださった故人と、そのご遺志を尊重されたご遺族の方々に対し敬意を表し、ご冥福をお祈りしました。本学から福田寛医学部長、大野勲副医学部長、医学部教員代表として上条桂樹教授、学生代表として山口琢矢さんが、それぞれ献花を行い御霊の安らかならんことをお祈りいたしました。

参列いただけなかったご遺族・白菊会会員の皆様向けに白菊会HPに動画が掲載される予定です。

また、合同遺骨返還式は中止となり、ご遺骨と文部科学大臣からの感謝状は、個別にご遺族のもとへお届けいたします。



鹿野記念奨学奨励賞及び笠原賞 授賞式



鹿野記念奨学奨励賞及び笠原賞受賞者

鹿野記念奨学奨励賞及び笠原賞の授賞式が10月22日(木)に行われました。これらの賞は、白菊会から解剖学実習や診療科臨床実習等で優秀な成績を収めた学生に贈られるものです。今年度本学からは、鹿野賞は3年の土屋葵さんと吉田智哉さん、新しく創設された笠原賞は5年の後藤匡範さんが受賞しました。この授賞式は、例年5月に開催される東北大学白菊会総会に併せて行

われますが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大のため総会自体が中止となったため、本学受賞者の授賞式を福室キャンパスにおいて執り行いました。

当日は、福田寛医学部長からそれぞれ記念品・賞状が伝達され、記念撮影を行いました。なお、3名からの受賞のことは、来年度の白菊会会報に掲載されます。

医学部第1期生卒業アルバム作成開始

医学部第1期生の卒業アルバム作成が始まっています。前例のない中で早めの始動が必要と思われたため、昨年、学生の中からアルバム委員を募集し、有志5人が就任しました。アルバムの特長の1つとして、「診療科臨床実習」のグループごとの集合写真を掲載予定で、9月に全24グループの撮影を行いました。撮影は実習の合間に和やかなムードで行われ、時折大いに盛り上がっていま

した。10月の教授会では、先生方へも写真提供等協力の依頼を行いました。今後のスケジュールとしては、アルバム委員にてページレイアウト作成及び装丁、用紙等の選定を行うことと並行し、全体での集合写真、個人写真の撮影を行う予定です。医学部初の卒業アルバムの完成が楽しみです。

大学院医学研究科の設置について

本学は、平成28年4月に医学部を新設し、5年目を迎えています。完成年度(令和4年3月)を目前に控え、今後、臨床医学、基礎医学をはじめ、医学・薬学の融合科学、そして地域社会の公衆衛生といった医学をめぐる幅広い分野において、国民の健康増進に貢献する多様な人材を「知のプロフェッショナル」として輩出する

ことは、医学部を有する大学に課された使命であること、また本学がさらなる社会貢献を实践していくことを踏まえ、この度、大学院医学研究科の設置申請を行うことといたしました。

令和3年3月末に文部科学省に設置申請を行い、令和4年4月に開設する予定です。

医学部 行事予定

1月

1月6日(水)～13日(水) 1年次 後期定期試験期間
1月13日(水)～21日(木) 3年次 後期追再試験期間

2月

2月8日(月)～17日(水) 1年次 後期追再試験期間

3月

3月1日(月)～10日(水) 1年次・2年次・3年次 進級判定試験実施期間
3月18日(木) 進級判定

4月

4月6日(火) 令和3年度入学宣誓式

※定期試験・追再試験は、設定された試験期間または適宜実施されます。

入試センターより

薬学部学校推薦型選抜(指定校制・公募制)実施結果

11月21日(土)、本学小松島キャンパスにおいて、薬学部学校推薦型選抜(指定校制・公募制)を実施いたしました。指定校制の受験者は薬学科44名、生命薬科学科3名、公募制の受験者は薬学科124名、生命薬科学科7名でした。12月1日(火)に合格発表を

行い、指定校制は薬学科44名、生命薬科学科3名、公募制は薬学科94名、生命薬科学科6名が合格となりました。

なお、新型コロナウイルス感染症などへの対応として学校推薦型選抜(公募制)の追試験を12月5日(土)実施いたしました。

令和3年度入学者選抜日程

令和3年度の入学者選抜日程(薬学部学校推薦型選抜を除く)は、下記のとおりです。また、下記日程の他、新型コロナウイルス感染症等への対応として追試験日を設けます。

■ 薬学部 / 薬学科(6年制) 生命薬科学科(4年制)

試験区分		試験日
一般選抜	(前期)	令和3年1月23日(土)
	(後期)	令和3年2月13日(土)
大学入学 共通テスト 利用選抜	(前期)	本学での個別試験は課さない
	(中期)	
	(後期)	

■ 医学部 / 医学科(6年制)

試験区分		試験日
一般選抜	一次試験	令和3年1月23日(土)
	二次試験 (一次試験合格者のみ)	令和3年2月6日(土)または7日(日)

大学院より

令和2年度大学院学位記授与

令和2年9月4日(金)博士学位論文の最終試験(口頭による論文発表)があり、1名に博士(薬科学)の学位記が授与されました。氏名及び論文題名は次のとおりです。

論文博士(博士(薬科学))(1名)

番号	氏名	専攻科目	論文題名
1	中林 悠	生化学	ヒストンによる染色体分配置御と 共通サブユニット機能解析方法の確立

大学院薬学研究科入試結果

1. 薬科学専攻博士課程前期課程

	募集人員	志願者	合格者	入学手続完了者
推薦入学試験	10	1	1	1
一般入学試験(一次募集)	10	5	3	1
合計	20	6	4	2

2. 薬学専攻博士課程

	募集人員	志願者	合格者	入学手続完了者
一般入学試験(一次募集)	3	2	2	2
合計	3	2	2	2

大学院薬学研究科入試日程

1. 薬科学専攻博士課程前期課程

一般入学試験(二次募集)
(社会人入学試験を含む)
募集定員: 若干名
出願期間: 令和3年1月6日(水)~13日(水)
試験日: 令和3年1月26日(火)
合格発表日: 令和3年2月2日(火)

2. 薬科学専攻博士課程後期課程

一般入学試験
(社会人入学試験を含む)
募集定員: 若干名
出願期間: 令和3年1月6日(水)~13日(水)
試験日: 令和3年1月28日(木)
合格発表日: 令和3年2月2日(火)

3. 薬学専攻博士課程

一般入学試験(二次募集)
(社会人入学試験を含む)
募集定員: 若干名
出願期間: 令和3年1月6日(水)~13日(水)
試験日: 令和3年1月28日(木)
合格発表日: 令和3年2月2日(火)

キャリア支援センターより

令和2年度就職(進学)状況

就職・採用活動については、例年どおり、広報活動(就職情報サイトのオープン、会社説明会等)の開始時期は、3月、採用試験の開始時期は、6月となっております。

本学では、薬学科6年生282名、生命薬科学科4年生22名、大学院博士課程前期(薬科学専攻)2年生7名、大学院博士課程後期(薬科学専攻)3年生2名および大学院博士課程後期(薬学専攻)4年生4名の計317名が、就職あるいは大学院進学を目指し活動を行っております。

就職希望者にあつては、新型コロナウイルスの影響が懸念されたところですが、11月30日現在の各学科の進路状況は前年並みに高い内定率となっております。

【薬学科】

製薬会社4名、CRO・SMO1名、公務員9名、病院70名、調剤薬局145名、漢方相談薬局1名、ドラッグストア35名、計265名が進路を決定しており、進路決定率は94.0%(昨年92.3%)となっております。病院内定者は昨年よりも増加し、比率は24.8%(昨年18.9%)となっております。また、調剤薬局内定者は、145名(51.4%)と前年同時期168名(56.6%)よりも減少しております。

【生命薬科学科】

就職希望者14名について、製薬会社7名(MR4名、生産技術職3名)、CRO・SMO2名、公務員1名、ドラッグストア(総合職)1名、他業種2名の計13名が就職内定しております。また、進学希望者8名のうち大学院進学は4名(本学大学院1名、他大学大学院3名)、他大学編入1名が進路を決定しております。

【大学院】

薬科学専攻博士課程前期課程については、製薬会社3名(品質管理職2名、MR1名)、試験研究機関1名、CRO・SMO2名、化学工業1名が進路を決定し、昨年に引き続き進路決定率は100%となっております。また、薬学専攻博士課程にあつては、社会人を除く学生について、病院2名、調剤薬局1名、計3名全員が進路を決定しております。

なお、現在、進路未決定の学生の皆さんに対して、引き続き支援を行っておりますので就職課を積極的にご利用ください。

令和2年度薬学部キャリア・就職支援行事予定

10月

10月5日(月) 履歴書・エントリーシートフォローアップ講座(Zoom講座)
10月17日(土)～ 学内公務員講座(有料:令和3年7月迄)(web講座)
10月19日(月)～ 就職活動体験発表(動画配信)
10月26日(月) 面接試験対策講習会①(面接試験対策講義・模擬面接)(Zoom講座)
10月26日(月) 適性検査R-CAP(web受検)

11月

11月9日(月)～ 業界・仕事研究セミナー(動画配信)
11月9日(月)～ SPI3解説講座(動画配信)
11月10日(火) 製薬会社等内定者との懇談会(Zoom)
11月16日(月) キャリア支援講座講演会(対面実施)
11月17日(火) 面接試験対策講習会②(グループディスカッション、個人面接:希望者対象)(Zoom講座)

11月18日(水) インターンシップ事後講習会(対面実施)
11月30日(月) R-CAP解説講座(Zoom講座)

1月

1月26日(火) 就職ガイダンス-就活直前編-(生命薬科学科3年)(Zoom講座)

2月

2月中旬 就職ガイダンス・インターンシップ説明会(薬学科4年)(Zoom講座)
2月22日(月) 就職ガイダンス-就活直前編-(薬学科5年)(Zoom講座)
2月24日(水) 就職活動直前講座(自己分析・ES対策・面接対策等)(Zoom講座)

3月

3月予定 合同就職説明会(遠隔実施)

令和4年3月卒業予定者の就職活動時期について

卒業・修了する学生の就職活動時期については、これまで日本経済団体連合会が「採用選考に関する指針」を策定し、国公立の大学等で構成する就職問題懇談会による「申合せ」、政府の関係省庁による経済団体・業界団体等に対する遵守等の要請というプロセスにより決められていました。

しかしながら一昨年、日本経済団体連合会が2021年3月以降の卒業・修了予定者に適用される「採用選考に関する指針」は策定しないことを公表したことから、現在は政府主導で、当面これまでの日程を維持することとなりました。したがって、2022年春の卒業・修了予定者についても、現行の日程を維持することとされていますが、実態として就活スケジュールに当てはまらない採用活動を行っている企業が増えており、さらに早期化する傾向が見られます。

以下は、国や就職問題懇談会が求める採用活動スケジュールです。

○**広報活動の開始時期…卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降**
事業所(企業)HPによる採用情報の公開、就職情報サイトのオープン、会社説明会への参加、エントリーシートの提出、グループディスカッション等。

○**採用選考活動の開始時期…卒業・修了年度の6月1日以降**
選考試験開始(筆記試験、面接試験)。
選考試験通過→内々定→10月1日に正式内定となります。

3月から事業所(企業)の広報活動が開始されますが、会社説明会開催やエントリーシートの提出等は3～4月に集中されることが予想されます。自己分析、業界・企業研究、エントリーシート作成、面接練習等、早めに準備や対策をすることが必要と思われます。

※就職問題懇談会の「2021年度大学・短期大学及び高等専門学校卒業・修了予定者に係る就職について(申合せ)」については、本学HP「キャリアサポート」内に掲載しております。

就職活動体験記



薬学部
薬学科6年
岡野 由佳

私はMRとCRA、薬剤師と3つの職種を並行して就職活動を行いました。理由はどの職種も一長一短であると感じ、就職は自分の一生を決めかねない大きな選択であるため時間をかけて職種を決めたかったからです。私の就職活動は昨年の夏ごろから始まりました。ちょうど実習の時期と被っており多くの時間を割くことができなかったため、まず大学の推薦形式のインターンシップに参加して職種の研究から行っていました。また、私は大手製薬会社に多い体育会系の雰囲気が苦手であったため、職種を絞らず代わりに企業の規模を中小に絞って見るようにしていました。

自己分析は、特に職種ごとに必要な能力からESや面接で使うエピソードを分けるように意識しました。例えばCRAでは立場が異なる人同士の折衝力が重要視されるため、それをアピールできるエピソードを挙げどのように工夫したか説明できるよう準備を行いました。インターンシップや説明会は、他の学生に比べると圧倒的に参加数が少ないと思いますが、参加したい企業のものは開催地がどこでも参加するようにしていました。

面接に関しては、今年はイレギュラーが多い年でした。最終面接まですべてオンラインで行う企業や、本社まで行ったにもか

わらず開始5分前にオンラインで行うと知らされ、面接会場でPCに向かって面接を受けた企業もありました。また私は対面での面接はあまり緊張しないタイプでしたが、オンラインの面接は勝手が異なるため緊張してしまい苦心しました。役員の方々と面接する際は特に、こちらのことを映像として捉えてしまうのか反応が少なく、このまま話してよいのか不安になりうまく自分を出せないこともありました。後日やはり直接顔が見たいということで同じ方と対面で面接を行いました。その際はよく反応を返して下さいました。オンラインの面接では、時には相手の反応の薄さを気にせず自分の話したいことを話しきる練習が大切だと感じました。

結果としては、ありがたいことにすべての職種から複数内定をいただくことができました。職種が異なるため、就職活動の軸やESのバリエーション、面接対策も複数行う必要がありましたが結果的に自分と向き合う時間が増え納得できるものになったと感じています。また就職活動においては、何事も自信を持って臨むことが重要だと感じました。面接で話せるエピソードがない、と感じる方は今からでも全く遅くないので何か行動に移すことが大切だと思います。アルバイトや学業、サークルなど何でもよいので自ら工夫して結果を出した経験があると面接に自信をもって臨めると思います。就職活動を行う中で自信をなくしたり不安で仕方がなくなることが必ずあると思いますが、自分が今まで努力したことや周りの人からの励ましの言葉を思い出して悔いのないよう精いっぱい就職活動を行ってください。

最後に、就職活動中不安だった私を励ましてくださった就職課の皆様、先生方、先輩や友人に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

インターンシップ体験記



薬学部
生命薬科学科3年
柳澤 紗良

私は高校生の頃から、治療法が確立していない病気を患っている患者さんのために、少しでも早く安全かつ有効性のある薬を提供できるような仕事に就きたいと考えていました。

昨年学内で行われた卒業生の講演会でCRA（臨床開発モニター）という職業があることを知り、自身のやりたい仕事に近いのではないかと考え、業界への理解を深めるためエイツーヘルスケア株式会社の2日間のWebインターンシップに参加しました。今年は新型コロナウイルスの影響で、すべてオンラインでの実施でした。

インターンシップ1日目は、まず初めに会社紹介があり、その後ビジネスマナーについての講習がありました。ビジネスマナーの講習では、敬語の使い方や表情に気を付けることはもちろん、相手に敬意をもって接する気持ちが大切だということを改めて学びました。

インターンシップには、他大学の学生も参加しており、職種体験では施設選定とスタートアップミーティングをグループワークで行いました。体験を通じて、医師と円滑にコミュニケーションをとること、情報を正確かつ確実に相手に伝えることの重要性を実感しました。その後の社員の方々との懇談会では、CRAは勉強として学会に参加することがあったり、医師との会話の中で必要な情報を引き出すために、コミュニケーション能力が向上するなど、働く中で大きな成長が得られる仕事だということを教えていただきました。

2日目は、プレゼンテーションの基礎講習がありました。プレゼンテーションでは、相手に興味を持ってもらうことを意識して準備を十分に行いプレゼンに臨むことが大切だということを知りました。最後に、社員の方と一対一での面談がありました。インターンシップを振り返り、自分の課題や弱みについて相談した際に、社員の方にご助言をいただき、今後の学生生活での自分自身を見つめ直すきっかけになりました。

今回のインターンシップはWebによる開催ではありましたが、会社のホームページや説明会では知ることのできない会社の雰囲気や、CRAが治験業界でどのような役割を果たしているのかについて詳しく知ることができ、参加にあたっての目的を果たせたと考えています。また、今後自分がどんな職業に就きたいのかがより明確になったため、インターンシップで見つけた自身の課題を解決していきながら、進路について考えていきたいと思っています。

二松会からの図書寄贈について(御礼)

毎年、二松会から図書館に図書購入費の御支援をいただいております。本年11月末までに次の図書を購入いたしましたのでご報告いたします。二松会・保護者の皆様へ心より御礼申し上げます。

【2020年11月末までの購入分】

- ・「薬剤師国家試験 領域別既出問題集 改訂第8版 全9巻」
- ・「クエスチョン・バンク医師国家試験問題解説2021」など

計41種 金額 309,062 円

図書館一部再開について

本館・医学分館ともに感染症拡大防止対策を講じた上で、8月下旬から利用対象者及びサービス内容を一部限定し再開いたしました。今後は、状況をみながらサービス内容の拡充を図って参ります。

また、遠隔授業実施に伴う学習支援の一環として、リモートアクセス機能^{*1}の継続的な充実を図り提供しております。在学生全員の公式メールアドレス宛にID/PWを通知しておりますので、取り扱いには十分ご注意の上ご活用ください。

^{*1}所定のID/PWを入力することによって、一部の電子資料(電子ブックや電子ジャーナル、データベース等)は場所を選ばず利用できる機能です。



法人より

組織改編

本年8月末の名取守病院の閉院により、病床の再編が行われ、福室本院・若林病院の2つの附属病院体制となりました。これに伴い、3病院の連携を図る役割を担ってきた病院経営管理部を解消、その所掌業務を福室本院事務部及び医学部事務部に移管す

る事務組織の改編を行いました。

なお、名取守病院に関することは、若林病院の総務医事グループにお問い合わせください。

学内人事

【医学部】

【新採用】

<令和2年8月1日付>

内科学第三(腎臓内分泌内科)

助手 中山 晋吾

<令和2年12月1日付>

救急・災害医療学

医師 古屋 智規

【昇格(職名変更)】

<令和2年10月1日付>

外科学第二(呼吸器外科)

助教→講師 三友 英紀

内科学第三(腎臓内分泌内科)

助手→助教 宮澤 恵実子

内科学第三(腎臓内分泌内科)

助手→助教 中山 晋吾

地域医療学

助手→助教 大山 千佳

外科学第一(肝胆膵外科)

助手→助教 近藤 典子

外科学第一(肝胆膵外科)

助手→助教 桜井 博仁

外科学第一(消化器外科)

助手→助教 三浦 智也

心臓血管外科学

助手→助教 武田 美貴

心臓血管外科学

助手→助教 平沼 和希子

眼科学

助手→助教 安達 彩

医学教育推進センター

助手→助教 穴戸 史

医学教育推進センター

助手→助教 豊島 かおる

医学教育推進センター

助手→助教 佐々木 雅史

【退職】

<令和2年9月30日付>

耳鼻咽喉科学

助教 齋藤 雄太郎

救急・災害医療学

助教 大村 拓

【事務局】

【異動】

<令和2年10月1日付>

病院経営管理部長→東北医科薬科大学若林病院事務部長

大森 壮晃

東北医科薬科大学若林病院事務部長→財務部付部長

千葉 淳一郎

病院経営管理部病院施設整備課長→医学部事務部施設課長(新設)

小幡 欽也

病院経営管理部病院経営管理課長→東北医科薬科大学病院事務部次長

古郡 英一

令和2年度外部資金獲得状況

令和2年10月31日時点
※契約済、今年度入金予定の分を含む

(1) 科学研究費助成事業(文部科学省)

(単位:円)

	薬学部・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	18	20	38	5
直接経費	25,600,000	28,680,000	54,280,000	7,300,000
間接経費	7,680,000	8,190,000	15,870,000	2,190,000
合 計	33,280,000	36,870,000	70,150,000	9,490,000

	医学部・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	14	42	56	16
直接経費	27,800,000	50,300,000	78,100,000	1,830,000
間接経費	8,340,000	15,090,000	23,430,000	549,000
合 計	36,140,000	65,390,000	101,530,000	2,379,000

	教養教育センター・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	0	1	1	3
直接経費	0	500,000	500,000	1,120,000
間接経費	0	150,000	150,000	336,000
合 計	0	650,000	650,000	1,456,000

	全学部・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	32	63	95	24
直接経費	53,400,000	79,480,000	132,880,000	10,250,000
間接経費	16,020,000	23,430,000	39,450,000	3,075,000
合 計	69,420,000	102,910,000	172,330,000	13,325,000

※移管分を含む、期間延長分・繰越分除く

(2) 科学研究費助成事業(厚生労働省)

(単位:円)

	全学部・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	1	0	1	12
直接経費	19,423,000	0	19,423,000	6,548,000
間接経費	5,826,000	0	5,826,000	335,000
合 計	25,249,000	0	25,249,000	6,883,000

(3) 受託研究費等

(単位:円)

	薬学部			
	受託研究	共同研究	奨学寄附	合計
件 数	6	10	7	23
直接経費	17,550,000	10,470,000	7,940,600	35,960,600
間接経費	3,705,000	847,000	604,511	5,156,511
合 計	21,255,000	11,317,000	8,545,111	41,117,111

	医学部			
	受託研究	共同研究	奨学寄附	合計
件 数	16	5	78	99
直接経費	81,020,447	2,800,000	47,406,059	131,226,506
間接経費	24,042,814	280,000	5,088,250	29,411,064
合 計	105,063,261	3,080,000	52,494,309	160,637,570

	全学部			
	受託研究	共同研究	奨学寄附	合計
件 数	22	15	85	122
直接経費	98,570,447	13,270,000	55,346,659	167,187,106
間接経費	27,747,814	1,127,000	5,692,761	34,567,575
合 計	126,318,261	14,397,000	61,039,420	201,754,681

※文部科学省共同利用・共同研究拠点事業除く

(4) 教育研究協力資金

(単位:円)

	個 人	企業・団体	合 計
件 数	387	7	394
金 額	13,443,000	31,400,000	44,843,000

附属病院より

附属病院体制の完成

令和2年8月末、名取守病院を閉院したことにより、附属病院は東北医科薬科大学病院(以下本院)と東北医科薬科大学若林病院(以下若林病院)の2病院体制となりました。同時に病床も移動しており、本院は600床、若林病院は127床にそれぞれ増床しております。

昨年4月にも若林病院から本院に一部の病床を移しておりますが、今回の移動で医学部設置計画上の病床再編は終了となります。

これまで地域医療への貢献や教育・研究機能の向上を図るため、各病院の機能分担を進めてきました。2病院体制となりましたも、本院はさらに診療の幅を拡げ、早期の特定機能病院化を目指す一方、若林病院は本院との連携を深めながら地域の医療ニーズに添えてまいります。両院および地域の医療ネットワークを通

2病院体制のスタート

じて、よりシームレスな医療提供体制を構築することにより、コロナ禍を乗り越え、急速に変化する社会、医療需要に柔軟に対応しつつ、医療人養成の使命を引き続き担っていきます。



本院・新館個室



若林病院5階

本院より

整形外科の取り組みについて

東北医科薬科大学病院(以下、「当院」)では、宮城県で初めて「脊柱変形に対する腰椎側方進入椎体間固定術(XLIF®)」を施行しました。

腰椎側方進入椎体間固定術(XLIF®)とは、成人脊柱変形を含む種々の腰椎疾患に対して、専用に開発された開創器と光源を用いて、側方アプローチ(後腹膜腔経路)で椎体間固定術を行う低侵襲(低出血量)の術式です。主に変性側弯症、後弯症、腰椎変性すべり症、脊柱管狭窄症、後方除圧・固定術後の再手術に適応しています。

本手技は十分な知識及び技量を有し、かつ学会認定のトレーニングを受講した医師のみが実施できる高度な術式であり、専用の設備を整備することも必須条件になります。

高齢化が進む中で腰椎疾患に悩む方も増加しており、当院整形外科では個々の患者さんの状態に合わせて、本術式を含め様々な手術法を組み合わせ、最も効果的で負担の少ない手術を今後も行っていきます。



実際の手術の様子

産婦人科について

令和2年4月、産婦人科に女性医師が2名入職しました。

当院では令和元年11月から分娩が再開し、現在15名の助産師と共に診療を行っています。分娩の再開から今年8月までに52名の方が無事に出産されました。大学病院であることから、内科疾患や精神科疾患などの基礎疾患合併の方も多く、それぞれの主治医の先生方と協力し無事に出産を迎えることができるよう取り組んでいます。

当院の健診は医師外来と助産師外来があり、医師外来では胎児超音波検査により胎児の発育を確認し、助産師外来では主に妊娠期間中の生活などの保健指導を行っています。分娩はLDRという特別個室で行っており、ここでは陣痛(Labor)から分娩(Delivery)、回復(Recovery)まで移動せずに同じ部屋の同じベッドで過ごすことができます。産まれたお子さんは毎日小児科医師が新生児回診を行い、お子さんの状態について連携して診療にあたっています。

皆様に安心して出産に臨んでいただけるよう産婦人科医局員、スタッフ一丸となって、今後も努力していきます。



左:松澤由記子講師 右:村岡由真助教

共用棟の運用を開始しました

「東北医科薬科大学 共用棟」は、その名の通り大学と病院の多様な用途で使用する建物です。1階は病院検査部、2階は病院検査部と卒後研修センター、3階は大学の授業に使用しております。中でも特筆すべきは、病院検査部の本館からの機能移転です。共用棟には、検体検査室(生化学・免疫検査・血液検査)、細菌検査室、遺伝子検査室が設けられました。本館で現在使用している検査室は、一般検査、輸血検査と時間外対応の緊急検査室として稼働することになります。共用棟完成による、検査機能の拡張に伴い、患者さんに対してより迅速で正確な検査報告が行えるよう努めてまいります。



共用棟

若林病院より

ナースコールが新しくなりました

令和2年10月、看護スタッフの負担軽減および情報共有をより充実させると共に医療安全の向上を図るために、設置から18年経過した旧システムに代えて、新型ナースコールを導入いたしました。メインディスプレイは大型のデジタルモニターになり、情報量も多く大変見やすくなりました。また、離床センサーの反応コールか、一般呼び出しの識別ができ、的確に対応できるようになりました。「トレンド呼び出し機能」では、どの患者さんがどの時間に何回ナースコールをしているのかなどの情報を知ることができ、患者さんのアセスメントと対応策を考えるのに役立っています。更に将来的には電子カルテとの連動により、機能の充実と業務の効率化を図ることが可能になります。

※掲載しております写真はサンプル写真です



連携充実加算研修会を行いました

令和2年7月21日(火)に連携充実加算研修会を当院研修室にて開催いたしました。(講演:「ホームページ公開のがん化学療法レジメンについて」 演者:宮内康夫薬剤師長)

近年、がん化学療法は外来治療に移行しており、それに伴い地域の調剤薬局との連携による在宅での安全な薬物療法の重要視されるようになりました。それに伴い2020年度診療報酬改定にて「外来がん化学療法」の連携充実加算が新設されたものです。コロナ禍の中での開催であり、感染予防のため、参加人数を限定、体温測定・体調チェックの実施、座席の間隔を確保しながらの開催となりました。

なお、当院ホームページに現在運用している化学療法レジメン(胃がん・乳がん・大腸がん)および化学療法用トレーシングレポートは掲載しておりますので、ご覧ください。



連携充実加算研修会の様子

巡回健診始めました

令和2年4月より、従前は名取守病院で行っていた「巡回健診」を若林病院健診センターが引き継ぎ運営しております。

「巡回健診」とは、当院の健診スタッフが直接委託企業の事務所等に伺い実施する健康診断で、社員の方々の利便性および受診率向上に繋がります。

健診会場では3密対策、体温測定や手指消毒の徹底、マスク着用の厳守等、感染対策を十分に図りながら委託企業の担当者様と協力して実施しています。

また今年度は福室キャンパスの医学部3・4・5年次生の皆様の巡回健診を担当させていただきました。

今後も巡回健診の更なる質向上に取り組んでいきます。



健診バス

職員の制服をリニューアルしました

令和2年4月より、若林病院職員の制服をリニューアルしました。新しい制服は「看護師」「医療技術職」「看護補助員」「事務員」の職種毎に4種類で、さらに「看護師」「医療技術職」は各3色ずつのカラーバリエーションになりました。

採用にあたり各職種の代表者による選定委員会にて協議し、現場の声を反映しました。患者様に清潔感や安心感といった好印象を与えるデザインであることは勿論、着心地の良さや高い通気性、ストレッチ性能による動きやすさといった機能面も重視しています。

また男女兼用のため性別を問わず同じ制服を着用することで、より統一感が生まれました。

若林病院にお立寄りの際は、リニューアルされた制服にもぜひご注目ください。



リニューアルされた制服

目時弘仁教授が令和2年度 日本医師会医学研究奨励賞を受賞

医学部衛生学・公衆衛生学教室の目時弘仁教授が「日本医師会医学研究奨励賞」を受賞しました。

日本医師会医学研究奨励賞は、医学上将来性に富む研究を行っていると思われる研究者に授与されます。

受賞研究:感染症流行下でのNCDsリスクの変化の観察と介入可能項目の探索:一般地域住民コホートや出生コホートでの検討

今回の受賞に至った経緯や目時教授の研究についてHP上で詳しく掲載していますので、是非ご覧ください。



第50回仙台広告賞の 優秀賞を受賞

仙台広告協会が主催する「第50回 仙台広告賞」において、本学が昨年5月に掲出した広告が新聞部門の優秀賞を受賞しました。9月17日(木)にホテルメトロポリタン仙台で表彰式が行われ、一力雅彦協会理事長(河北新報社長)より賞牌が授与されました。

仙台広告賞は、県内の企業や団体が制作した優れた広告作品を表彰するもので、今年で50年の節目を迎える歴史ある賞です。

受賞した作品は、本学の創立80周年を記念して掲出した広告で、「変わらぬ思い。新たなる歩み。」という本学の決意と未来へのメッセージが込められています。



大学ホームページリニューアル

11月下旬、大学の公式ホームページをリニューアルしました。

今回のリニューアルのポイントは、2つの導線「情報導線」と「共感導線」による構成を取り入れ、通常の知りたい情報にたどり着くための情報導線に加え、共感導線を新たに設けました。共感導線は、受験生やその保護者へ本学の在学生や卒業生の“実感(ひと)”を通じて、本学のRealな姿を発信することにより、地域医療への想いや未来を、「自分ごと化」し共感してもらうことを目指します。

具体的なコンテンツとしては、TMPUジャーナル(学生・卒業生・教職員インタビュー)、80年の歴史ページ、なんでもデータページ、TOPページ動画などを新たに制作いたしております。是非今後の情報発信にもご注目ください。



東北薬祖神祭に出席

毎年「薬と健康の週間」にあわせ薬祖神祭が各地で行われております。

宮城県では、医薬の祖神と言われている大己貴命、少彦名命の二神を祀る松尾神社(仙台市青葉区宮町)にて、宮城県医薬品卸組合東北薬祖神奉賛会のもと、令和2年10月16日(金)に第52回東北薬祖神祭が執り行われました。本学では、業界のなご一層の繁栄と2月に行われる薬剤師国家試験にて本学受験生全員が合格するよう祈願してまいりました。



NHK Eテレ サイエンスZEROへ 佐々木健郎教授が出演

薬学部生薬学教室の佐々木健郎教授が開発した「あおり藍エキス」の様々な分野への応用の可能性がNHKEテレのサイエンスZERO「天然染料 藍の科学 抗ウイルスに農業革命も!」で放送されました。既にマスクや抗菌衛生用品として製品展開されている藍エキスが持つ抗菌・抗ウイルス作用だけではなく、農作物の成長を促す未知の作用まで確認されたことを、佐々木教授と東京大学大学院の浅見忠男教授がスタジオで解説しました。今後の発展が期待されます。

教室紹介

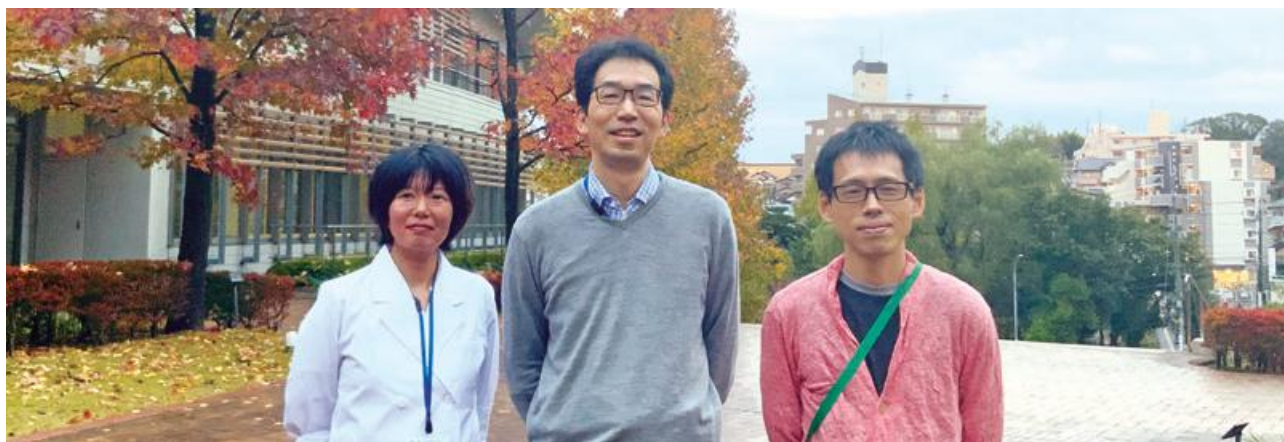
薬学部 薬品物理化学教室(教室責任者:山口 芳樹教授)

私たちは薬学部の物理化学系の講義を担当しております。高校で学んできた内容とは一味違う世界に突入し、苦手意識を感じやすい分野ですが、最近の話題(量子コンピュータなど)やエピソードにも触れつつ、学問としての面白さを味わってもらえるような講義を目指しております。なるべく数式を使わないようにし、問題への取り組み方を重視しています。

本教室は、抗体医薬品の成分であり、がんマーカーとしても用いられている「糖鎖」を対象として、その構造と機能の関係を物理化学的な手法を用いて明らかにしようと奮闘しております。卒業

研究や大学院の研究も、実験のトレーニングを積んだ後、いまだ答えの得られていない問題に対してスタッフと議論を重ねながら取り組み、研究の一翼を担います。

また、本学分子生体膜研究所の一員として、分野連携を進めて共同成果を発信しつつ、糖鎖の構造解析の分野においては唯一無二の存在でありたいと考えております。若輩者ではありますが、研究教育を通じて、問題解決能力に長け、かつ社会に広く貢献できる人材を輩出したいと考えておりますので、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。



左から 大野助手、山口教授、真鍋講師 令和2年10月小松島キャンパスにて

医学部 衛生学・公衆衛生学教室(教室責任者:目時 弘仁教授)

医学部衛生学・公衆衛生学教室は3名のスタッフで、主に医学部1年次後期の衛生学、および衛生学体験学習と、医学部2年次後期の公衆衛生学を担当しており、3年次後期の環境疾病学や4年次前期の臨床分子遺伝学でも一部担当があります。また、薬学部4年次後期の医学統計学も令和2年度から担当しています。

当教室では、循環器領域や周産期領域の疫学を主な研究分野として研究活動を行っております。コホート研究が主体ですが、データベース研究や介入研究も行っています。研究遂行のために、2名のスタッフさんにお手伝いいただいております。また、他

大学や臨床各科との共同研究も積極的に進めています。さらに、東北大学大学院からは3名の大学院生さんが疫学研究を学びに勉強に来ておられます。

3年次学生が課題研究で配属された際には、実際に地域を訪問してもらい、集まっていた参加者の方々の各種測定にも積極的に関わっていただいております。

地域医療の実践中にご自身の興味を引くクリニカル・クエストが生じた際には、当教室までお気軽にお声がけください。その際には生じた疑問にこたえるべく、人を対象とする研究計画と一緒に考えていきたいと考えております。



花巻市大迫町で、住民の暮らしを知るために、農作業(ブドウ剪定)について説明を受ける様子



検査後の検体整理を行っている様子

同窓会より

叙勲・表彰

卒業生が受章(受賞)されました。
心からお祝い申し上げますとともに
ますますのご活躍を心より祈念いたします。

◆秋の叙勲 令和2年

〔旭日双光章〕

加藤 英文 様 元 福島県薬剤師会 専務理事
昭和48年卒業(大学21回生)(福島県)
松木 勝廣 様 元 青森県薬剤師会 理事
昭和48年卒業(大学21回生)(青森県)

◆高齢者叙勲 令和2年

〔旭日双光章〕

増澤 淳郎 様 元 宮城県薬剤師会 副会長
昭和30年卒業(大学3回生)(宮城県)

◆厚生労働大臣表彰

【薬事功労者】

藤澤 芳則 様 元 北海道薬剤師会 副会長
昭和46年卒業(大学19回生)(北海道)

細田 稔男 様 元 岩手県薬剤師会 理事
昭和51年卒業(大学24回生)(岩手県)
瀬戸 裕一 様 元 宮城県薬剤師会 副会長
昭和57年卒業(大学30回生)(宮城県)
高橋 正 様 元 秋田県薬剤師会 常務理事
昭和55年卒業(大学28回生)(秋田県)

◆文部科学大臣表彰

【学校保健及び学校安全表彰】

志賀 隆博 様 札幌市立新川中学校薬剤師
昭和47年卒業(大学20回生)(北海道)
猪股 勉 様 岩沼市立岩沼西中学校薬剤師
昭和55年卒業(大学28回生)(宮城県)

◆日本薬剤師会賞

【日本薬剤師会賞】

宮本 篤 様 元 北海道薬剤師会 副会長
昭和53年卒業(大学26回生)(北海道)

◆青森県薬事功労者知事表彰

【薬事功労者】

伊藤 博次 様 現 青森県薬剤師会 理事
昭和60年卒業(大学33回生)(青森県)

◆宮城県文化の日表彰

【産業功労者】

水野 暢大 様 現 塩釜蒲鉾連合商工業協同組合 副理事
昭和55年卒業(大学28回生)(宮城県)

【教育文化功労者】

佐藤 正枝 様 現 学校薬剤師
昭和47年卒業(大学20回生)(宮城県)
鶴見 勝 様 現 学校薬剤師
昭和44年卒業(大学17回生)(宮城県)

【保健衛生功労者】

鈴木 常義 様 現 宮城県薬剤師会 監事
昭和48年卒業(大学21回生)(宮城県)

二松会より

二松会総会の開催について

今年度の二松会総会は、10月3日(土)に開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を考慮し、会員の皆様にご参集いただいた開催は中止とし、郵送による書面表決という形にて開催いたしました。

結果につきましては以下のとおりです。

※なお、下記の結果につきましては、10月27日付にて大学ホームページにも掲出してあります。

記

1. 日程 書類発送：令和2年9月26日 -
提出締切：令和2年10月16日
2. 書類発送数 2,443通
3. 返送数 1,139通(返送率:46.6%)
4. 各議案に対する回答

議案	賛成	反対	無回答	賛成率
第1号議案 令和元年度収支決算	1,135	0	4	99.6%
第2号議案 令和2年度事業計画	1,134	1	4	99.6%
第3号議案 令和2年度予算	1,133	2	4	99.5%
第4号議案 役員の改選	1,134	0	5	99.6%
第5号議案 退任役員への感謝状並びに記念品の贈呈	1,135	1	3	99.6%

5. 決議結果

- 第1号から第5号までの議案について、過半数の賛成により可決されました。
- ※二松会会則 第九条に準じ、ご提出いただいた書面表決書により、過半数の賛成をもって可決。

6. いただいたご意見について

会員の皆様より、二松会の運営および大学に対する励ましの言葉を多数頂戴するとともに、ご指摘等に関するご意見も複数いただきました。

皆様からいただいたご意見につきましては、大学とも共有のうえ、本会運営に役立たせていただきたいと思います。引き続き、ご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします。

ご寄付のお願い(教育研究協力資金)

本学では教育・研究のための環境整備などを目的として、継続的に皆様からのご支援を受け付けております。引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

<寄付申し込み方法(個人でのお申込み)>

- ・インターネット:クレジットカード決済、コンビニ決済、Pay-easy決済よりお選びいただけます。QRコードまたは以下URLよりお手続きください。
(教育研究協力資金URL: <https://www.tohoku-mpu.ac.jp/about/donation/>)
- ・銀行振込:振込用紙を送付いたしますので、以下の問い合わせ先までご連絡ください。

<お問い合わせ先>

財務部財務課 TEL:022-234-4181(代表) E-mail:kifukin@tohoku-mpu.ac.jp



東北医科薬科大学 広報委員会

〒981-8558 仙台市青葉区小松島4丁目4番1号
電話番号 022(234)4181 FAX 022(275)2013
URL <http://www.tohoku-mpu.ac.jp/>

本学公式SNSへのご登録はこちら

東北医科薬科大学
Facebook



ご登録は
こちらから



東北医科薬科大学
Twitter



ご登録は
こちらから

